

## エストニア、ポーランド、ロシア、ラトビア剣道親善訪問のご報告

6月1日から12日の予定で上記の国々の首都へ剣道親善交流をしてまいりました。

参加者は、範士湯村先生、八段、森、米倉、曾根先生方を指導陣、総勢16名が日本の各地から1日、フィンランド空港で集合、私には初めてのバルト3国のエストニアのタリンへ向かいました。7時間の時差で、2日(土)ホテルから剣道具を付けて徒歩にて城壁に囲まれた古都(世界遺産)の体育館へ。20名余の参加者が待ち受けておられ、双方のご挨拶と紹介後、湯村先生が英語にて

「有効打突の条件について」講話をされ、(これは各国全てで講話をされました。)その後はクラス別で講習会を行いました。初心者クラスは8名です。有効打突になる打突を覚えるための移動と打突を中心に講習を行いました。オリバー、アイトさんが日本語を話せるので通訳をして頂き、タルモ会長等と夕食も楽しく、懇親を致しました。また、翌日は世界遺産の観光で、計3泊しました。

4日(月)ポーランド、ワルシャワへ到着後は直ぐ、シュペルの公園を観光、夜に稽古、懇親会后、1泊、翌日5日(火)ロシアの飛び地カレニングラードへ飛行、ロシア艦隊の基地になっています。到着後は港を観光、平日の為やはり、夜稽古、懇親会となります。ここも20名余の剣友がおられました。若い指導者が率いる剣道で勢いがありました。ここは12時過ぎに懇親会を終え、そのまま飛行場へ移動、夜明けの飛行機でラトビアのリガへ、ホテルは午前インが出来、休息、7日(木)リエパヤ市へ4時間のバスの旅、スポーツセンターで剣道デモンストレーションを行い、街を観光して帰路につきました。8日(金)リガで行う「湯村カップ」会場へ9時発、8か国の参加者が集っての剣道講習会が始まります。剣道形、基本稽古、地稽古、そして和食弁当、午後は書道教室、抹茶作法、そして地稽古をして明日の大会に備えます。

9日(土)「湯村カップ」個人戦、本年は子供も3部門になり、女性、男性と総勢70名余の参加者に増えました。夜はすしパーティーです。日本からの材料を使って同行のお母さん方が、すし、カレー、ギョウザ等をご飯も炊いて、皆さんに振る舞い大懇親会です。今年は日本酒も持参しました。

10日(日)午前、今回から団体戦も組まれ、男女ともリトアニアが優勝を飾りました。

午後から昇段審査会が行われ、拝見しました。審査員はフィンランドの7段6段のご夫妻、後はバルト3国の6段5段の審査員で初段から3段まで約20名位の受験者でした。厳しい審査結果です。

其の後は国へ帰国される方が居られます。車で7時間も駆けて来られる方もいました。17時までの間我々も含めてそれぞれが稽古をして今回の剣道親善交流を締めくくりました。

ホテルへの帰路、スーパーへ寄ってお土産の買い物をして、皆さん無事翌日の12日各地へ帰国しました。

